

平成27年度
登別市デンマーク友好都市
中学生派遣交流事業
研修報告書



目 次

- 登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要・・・・・・・・・・1
 - 事業概要
 - 研修日程表
 - 派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿
 - 派遣日程表

- 紀行文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - 8月 7日（金）：出発から、コペンハーゲン初日
北海道登別明日中等教育学校 3回生 飯尾 ひなた

 - 8月 8日（土）：オーデンセ～ホストファミリーとの対面
北海道登別明日中等教育学校 3回生 櫻井 涼風

 - 8月 9日（日）：ホストファミリーと見学したイーエスコー城
登別市立幌別中学校 1年 小松 萌加

 - 8月 10日（月）：楽しかったレゴランド
北海道登別明日中等教育学校 2回生 菅原 里乃彩

 - 8月 11日（火）：ノーアエア校～森の幼稚園～市役所
登別市立鷺別中学校 2年 西舘 優花

 - 8月 12日（水）：リングフリー校からお別れ会
北海道登別明日中等教育学校 3回生 三 村 凜

 - 8月 13日（木）：デンマークから日本帰国まで
北海道登別明日中等教育学校 3回生 西 村 爽

- 研修テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
 - 小松 萌加 : デンマークと日本の生活習慣の違いについて
 - 西舘 優花 : デンマークの人々との交流
 - 飯尾 ひなた : 日本がデンマークに与える影響と家の違いについて
 - 櫻井 涼風 : デンマークの習慣と生活スタイル・教育方針や方法
 - 西 村 爽 : デンマークの朝ごはんについて
 - 三 村 凜 : デンマークの主食と自転車の違いについて
 - 菅原 里乃彩 : デンマークのお菓子について

○感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

- 小松 萌加 : 一生の思い出
- 西 舘 優花 : デンマークの思い出
- 飯尾 ひなた : 心配だった会話、楽しかった海
- 櫻井 涼風 : 初めての海外
- 西 村 爽 : デンマークの暮らしと学び
- 三 村 凜 : デンマークでの一週間
- 菅原 里乃彩 : ホストファミリーとのおもいで

○引率者報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

- 団 長 : 櫻井 貴志 登別市教育部学校教育グループ 学務主幹
- 引率者 : 月居 由香 北海道登別明日中等教育学校教諭

事業概要

○ 事業概要

1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流を深め、日本とは異なる生活や文化を体験させることにより、生徒の人間性を豊かにし彼らの将来に良好な影響を与えるとともに、ファボー・ミッドフュン市との更なる交流推進の一翼を担うことを目的とする。

2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン市、オーデンセ市、
ファボー・ミッドフュン市

3 派遣期間

平成 27 年 8 月 7 日（金）～14 日（金）：7 泊 8 日

4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校、ノーアエア校

施設見学：アンデルセン博物館、レゴランド、イーエスコー城、
森の幼稚園、老人ホーム

5 研修内容

(1) 結 団 式：平成 27 年 7 月 3 日（金）

(2) 事 前 研 修：平成 27 年 7 月 6 日（月）～8 月 3 日（月） 計 10 回
デンマークの概要の学習、研修テーマの発表、英会話、
デンマーク語、登別の紹介・歌・踊りの練習など

〔講 師 等〕

派 遣 O B：河邊 美鈴〔H26 年度：登別市立西陵中学校〕

宗本 紗季〔H26 年度：登別市立鷺別中学校〕

伏見 結衣〔H26 年度：登別市立鷺別中学校〕

外崎 愛海〔H26 年度：登別市立鷺別中学校〕

早坂 咲〔H26 年度：登別市立登別中学校〕

寺谷 倫〔H26 年度：北海道登別明日中等教育学校〕

(3) 事 後 研 修：平成 27 年 8 月 21 日（金）～9 月 25 日（金） 計 6 回
研修成果まとめ、紀行文・感想文提出、帰国報告会準備

(4) 帰国報告会：平成 27 年 10 月 26 日（月）

○ 研修日程表

月 日	内 容		会 場	時 間
07月03日(金)	結団式・第1回保護者説明会		市民会館/小会議室	18:00～19:30
07月06日(月)	事前研修①	デンマークの概要説明、研修テーマの発表、役割分担（紀行文・登別紹介・挨拶）、アトラクションの内容決定	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
07月10日(金)	事前研修②	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
07月13日(月)	事前研修③	手紙の書き方、英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
07月16日(木)	事前研修④	英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/大会議室	16:30～18:00
07月21日(火)	事前研修⑤	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30～17:45
07月23日(木)	事前研修⑥	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	9:30～12:00
07月26日(日)	事前研修⑦	派遣団OBとの懇談会	市民会館/視聴覚室	9:30～12:00
07月28日(火)	事前研修⑧	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	9:30～12:00
07月30日(木)	事前研修⑨	アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	9:30～12:00
08月03日(月)	事前研修⑩	最終打ち合わせ、総練習	市民会館/視聴覚室	9:30～12:00
08月05日(水)	市長へ出発挨拶（派遣者）		市役所/市長応接室	10:00～10:30
	第2回保護者説明会（保護者）		市役所/第2委員会室	18:00～19:00
08月07日(金)	デンマークへ出発		市役所/裏駐車場	05:15～
08月14日(金)	デンマークから帰国		市役所/裏駐車場	17:30頃
08月17日(月)	市長へ帰国挨拶		市役所/市長応接室	16:30～17:00
08月21日(金)	事後研修①	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
08月28日(金)	事後研修②	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
09月04日(金)	事後研修③	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
09月11日(金)	事後研修④	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
09月18日(金)	事後研修⑤	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
09月25日(金)	事後研修⑥	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30～18:00
10月26日(月)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18:00～19:30

※帰国報告会は暴風警報の発表により、当初予定の10月2日(金)から10月26日(月)に延期。

○ 派遣生徒・引率者名簿

中学校名	学 年	生徒名
登別市立幌別中学校	1年生	小松 萌加
登別市立鷺別中学校	2年生	西館 優花
北海道登別明日中等教育学校	3回生	飯尾 ひなた
北海道登別明日中等教育学校	3回生	櫻井 涼風
北海道登別明日中等教育学校	3回生	西村 爽
北海道登別明日中等教育学校	3回生	三村 凜
北海道登別明日中等教育学校	2回生	菅原 里乃彩

引率者	団 長	登別市教育部 学校教育グループ 学務主幹	櫻井 貴志
	引率教諭	北海道登別明日中等教育学校	月居 由香

○ ホストファミリー名簿

派遣者名	ホスト名・住所・メールアドレス	性別	家族構成
小松 萌加	Mathilde Toft Larsen Haar マティルデ・T・ラーセン ハー	女	父 サンディ 母 リネ 姉 イダ
西舘 優花	Sara Lønsberg Kristensen サラ・L・クリステンセン	女	父 フレミング 母 ヘレ
飯尾 ひなた	Josefine Flindt Petersen ヨセフィーヌ・F・ペーターセン	女	母 マリアンヌ 兄 トビアス 妹 エリザベス
櫻井 涼風	Juliane Nina Lund ユリエーネ・N・ロン	女	父 ヤン 母 ヘレ 姉 フレデリケ
西村 爽	Julie Kronborg Kristiansen ユーリエ・K・クリスチャンセン	女	父 クラウス 母 ヴィベケ 妹 フィエ
三村 凜	Mille Marie Bakkegaard Starklint ミレ・M・バックカー・スタークリント	女	父 オーレ 母 カトリーナ 兄 ヨナス 姉 カロリーヌ
菅原 里乃彩	Maja Skalshøj Andreassen マイヤ・S・アンドレアッセン	女	父 ペール 母 ローネ 姉 マリアンヌ 兄 アンダー 弟 クリスチャン
团长 櫻井 貴志 引率教諭 月居 由香	Anne Helstrup アネ・ヘルストラップ	女	主人 トーベン 息子 シモン イエポー マウネ アスビャアン

○ 派遣日程表

月日	行程	内容	食事	宿泊
8/7 (金)	市役所 ⇒ 千歳空港 05:30 06:40	《1日目》 05:15 市役所裏玄関に集合 05:30 市バスで新千歳空港へ 06:40 新千歳空港到着後、搭乗手続き	機内	ホテル
	千歳空港 ⇒ 成田空港 07:50 09:25	07:50 NH(全日空)2152 便で成田国際空港へ 09:25 成田国際空港着後、出国手続き		
	成田空港 ⇒ コペンハーゲン 11:40 空港 (現地時間) 16:05	11:40 SK(スカンジナビア航空)984 コペンハーゲン空港へ 16:05 コペンハーゲン空港到着後、入国手続き		
	コペンハーゲン ⇒ コペンハーゲン 空港駅 中央駅	17:42 列車(RE1385)でコペンハーゲン中央駅へ 17:56 コペンハーゲン中央駅到着		
	コペンハーゲン ⇒ ホテル 中央駅	18:00 駅からホテルへ徒歩移動 18:10 ホテルチェックイン ※宿泊ホテル: Comfort Hotel Vesterbro		
8/8 (土)	ホテル ⇒ コペンハーゲン 中央駅	《2日目》 09:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ	ホテル	ホスト
	コペンハーゲン ⇒ オーデンセ駅 中央駅	10:03 コペンハーゲン中央駅で乗車(LYN51041) 11:35 オーデンセ駅到着	派遣 交流団	
	オーデンセ市内	11:35~15:00 オーデンセ駅着、道子・ペダスンさんの案内の もとアンデルセン博物館などを見学	ホスト	
	オーデンセ駅 ⇒ リング駅	道子・ペダスンさんとオーデンセ駅で別れる 15:22 オーデンセ駅で乗車 (RE4650) 15:38 リング駅着 ホストと対面し、各家庭へ	ホスト	
8/9 (日) ～ 8/12 (水)	ファボー・ミッドフン市内	《3日目～6日目》 ・ホストファミリーと過ごす(8/9～8/12) ・イーエスコー城見学(8/9) ・レゴランド見学(8/10) ・ノーアエア校訪問(8/11 AM) ・森の幼稚園見学、ファボー・ミッドフン市役所表敬訪問、 図書館見学(8/11) ・リングフリー校登校(8/12:始業日)、老人ホーム(8/12) ・お別れ会(7学年ホストファミリーと)(8/12) ☆プレゼン、歌、踊りの披露	ホスト	ホスト
8/13 (木)	ホスト宅 ⇒ リング駅	《7日目》 それぞれホストファミリー宅からリング駅に向かう 08:30 リング駅到着	ホスト	機内
	リング駅 ⇒ オーデンセ駅 08:42 09:07	08:42 ホストファミリーやお世話になった方々に別れを 告げ、列車でオーデンセ駅へ (RE2623) 09:07 オーデンセ駅着	派遣 交流団	
8/14 (金)	オーデンセ駅 ⇒ コペンハーゲン 09:46 空港駅 11:36	09:46 列車乗り換え、コペンハーゲン空港駅へ(IC116) 11:36 コペンハーゲン空港駅到着後、空港まで徒歩移動。 出国手続き。	機内	派遣 交流団
	コペンハーゲン ⇒ 成田空港 15:45 空港 (日本時間) 9:35	15:45 スカンジナビア航空(SK983)で成田空港へ 〔日付変更線〕	機内	
	成田空港 09:35 (日本時間)	《8日目》 09:35 成田国際空港到着後、入国手続き、税関審査。	派遣 交流団	
	成田空港 ⇒ 羽田空港 11:00 12:10	11:00 成田国際空港から羽田空港までリムジンバスで移動		
羽田空港 ⇒ 新千歳空港 14:00 15:30	14:00 NH(全日空)67 便で新千歳空港へ (荷物受取り) 到着後、市バスに乗車	派遣 交流団		
新千歳空港 ⇒ 市役所 16:30 17:40	16:30 市バスで市役所へ 17:40 市役所到着			

紀 行 文

出発から、コペンハーゲン初日

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 飯尾 ひなた

私は、デンマークに行く何日も前から楽しみで夜寝られるか不安でしたが、前日の夜はぐっすり眠ることができました。朝起きると、「これから行くんだ。」ととてもわくわくしてきました。登別市役所に集合し、みんなでバスに乗りました。バスの中では、お菓子を交換したり、音楽を聴いたりしました。

新千歳空港に着き荷物を預けるとき、トランクの中に充電器を入れていてチェックにひっかかってしまい、とてもあせりました。成田空港ではかなり長い自由時間があり、時間が余ったので、友達としゃべって過ごし、やっと飛行機に乗りました。飛行機の中ではほとんど寝ず、ゲームのテトリスばかりやっていました。英語バージョンのシンデレラを見たり、友達としゃべったり、折り紙でつるを折ったりして、暇な時間を過ごしました。



コペンハーゲン空港に着き、すぐに列車に乗りました。駅からホテルに向かって歩いている途中チボリ公園が見えたので、とてもテンションが上がりました。ホテルの部屋は思ったよりもきれいで、おしゃれでした。

チボリ公園では、はじめチケット売場がわからず苦戦したものの、ジェットコースターやフリー

フォールがとても楽しかったです。集合時間に間に合わず他のひとに少し迷惑をかけたしましたが、乗りたかった乗り物にも乗ることができ、とてもよい1日になりました。

帰りにセブンイレブンで夜ご飯用にクロワッサンを買ってホテルに戻りました。とても疲れていたのので、友達と少ししゃべって、そのあとお風呂に入って、すぐ寝てしまいました。



オーデンセ～ホストファミリーとの対面

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 櫻井 涼風

私達は、ホテルを出発しました。昨日は夕方だったから気付かなかったのですが、朝にはたくさんの自転車、日本では見たことの無い自転車がたくさんありました。「そう。ここは自転車大国デンマークなのだ。」と実感しました。

コペンハーゲンからオーデンセまで電車で1時間強を過ごしました。オーデンセに着いてからは道子・ペダスンさんと過ごしました。アンデルセンの生涯を道子・ペダスンさんが紹介してくれました。一緒にアンデルセンの家を回っ



たり、大聖堂を訪れたりしました。

アンデルセンの家を訪れ説明を受けると、ガラリと彼への印象が変わりました。お金持ちだったり、昔から何か秀でたところがあったのかと思っていましたが、実際は貧しく、くつ一足もなかなか手に入れられない家庭だったようです。そんな中でも彼は人々が楽しめるような作品を作っていたのです。彼が作った作品は日本でも出版され、有名になっているものもたくさんあり、「みにくいあひるの子」や「おやゆび姫」などがそうです。きっとたくさんの日本人が知っていることでしょう。

また、大聖堂で一番印象に残ったのは、正面にあった金色の祭壇で、とても大きく輝いて見えました。1つ1つのわくでストーリーが出来ていて、素晴らしいものでした。他にも、様々な伝統的なものがありました。



歩いているうちに、「小さい図書館」と称した箱があり、その中には本がいくつかありまし

た。それは誰のものでもなく、皆が自由に読めるそうです。これを見て、デンマークは人と人とのつながりが良好だなと思いました。



そして全ての見学が終わり、電車に乗ってリングゲに行きました。ホストと会いみんながばらばらに別れました。これから楽しくなるのだらうと期待を胸に抱きホストの車に乗りました。

ホストファミリーと見学したイーエスコー城

登別市立幌別中学校 1年 小松 萌加

私は、登別マリンパークニクスのモデルとなったイーエスコー城を見学しました。イーエスコー城は、ファボー・ミッドフェン市の中心部から少しはなれた所にある大きなお城です。私がお城を見た時の第一声は、「似てる！」でした。



イーエスコー城の中は博物館になっていて、1階には「伯爵の書斎」があり、その部屋は子供の誕生日のお祝いなどが行われるパーティ会場としても使われたそうです。また、「黄色の部屋」という、美しい象眼細工の家具が置いてある部屋や小塔もあります。2階には、宴会場や「海軍大将の部屋」など、さまざまな部屋がありました。屋根裏には、「陶器の部屋」というところもありました。



私が気になったのは、屋根裏部屋にあった「木の人形」というものです。

柱の真ん中に白い包帯のようなもので巻かれた人形があって、その人形を動かすと、クリスマスの夜に城が堀に沈むという言い伝えがあるそうです。その言い伝えをホストファミリーから聞いて、私はびっくりしました。

お城から出て、涼風さんと爽さんと2人のホストファミリーと、私と私のホストファミリーの6人でお昼ごはんを食べた後、6人で迷路に向かいました。最初の方はスムーズに進んだけれど、後の方はなかなか進まずとても苦戦しました。迷路のゴールには展望台があって、そこからはイーエスコー城やその周辺が見渡せました。

展望台をおりて、迷路の横にある建物に入りました。入口近くには、昔のバイクや車が展示してあり、エンジン音を鳴らしてみることができる物がいろいろありました。いくつか鳴らしてみると、それぞれ音が違っておもしろかったです。次に、ドラキュラの死体のような物を見に行きました。顔がとてもこわかったです。その後には、馬車に乗ってイーエスコー城を見て回りました。



この一日は本当に楽しい思い出になりました。

楽しかったレゴランド

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 菅原 里乃彩

私達は、4日目の8月10日にレゴランドへ行きました。リングフリー校から約1時間バスにゆられて着きました。

午前中は、凜ちゃん、ひなたちゃん、優花ちゃんと、そのホスト達と回っていました。最初にレゴで作られた人形やワニなどを見てまわる船に乗りました。船から見た作品はすごく細かく作られていてびっくりしました。



次に、日本人とデンマーク人に分かれて、バイキングみたいな乗り物やすごく急なジェットコースター、止まったと思ったらいきなり落ちるジェットコースターに乗りました。

日本にもあるような、お金を払ってバスケットゴールにボールを投げて、入れることに成功したら大きなクマのぬいぐるみもらえるゲームもありました。前の人が何回も挑戦してクマのぬいぐるみをゲットしていました。私の友達もそれに20クローネを払って挑戦していました。結果はぬいぐるみを取ることは出来ませんでした。すごく面白そうでした。

私と優花ちゃんは、時間ギリギリでしたが、2人だけでアトラクションに乗りました。道に迷いながらも本当にギリギリに集合場所に着きました。

お昼は、屋根がついたところでホストが持たせてくれたお弁当を食べました。それぞれ美味しいお昼ごはんを食べていました。

お昼ごはんのあと、私と優花ちゃんはホスト達と一緒に見て回りました。水のスライダーにも乗りました。私には水はそんなにかかりませんが、マチルダやヨセフィーヌにはたくさんかかっています。



そのあと、午前中に優花ちゃんと乗った乗り物にもう1回乗りました。これはとても楽しくて気に入りました。

私はおみやげ屋さんにも行きたかったので、私のホストのマイヤに言ったら、一緒に行こうと言ってついてきてくれました。おみやげ屋さんに着いて、すごく急ぎましたが、そこでたくさんおみやげを買うことができました。

最後にみんなで出口で写真をとりました。そしてまた、バスで1時間位ゆられてリングフリー校に帰ってきました。

今回乗れなかった乗り物もあったので、もっと時間がほしかったです。またいつか行ってみたいです。

ノーアエア校～森の幼稚園～市役所

登別市立鷺別中学校 2年生 西舘 優花

ノーアエア校、森の幼稚園、市役所に行ったのは8月11日で、5日目のことでした。

まず最初に、ノーアエア校を訪問してきました。ノーアエア校は、生徒の数が多くて驚きました。最終日に行ったリングフリー校よりも人が多かったです。そして驚きが緊張に変わりました。でも、ノーアエア校の人たちとグループごとに分かれて話し合ってみたら、明るく気軽な人たちだと実感することができ、やっと緊張がとけました。



次は、森の幼稚園を訪問しました。幼稚園の子どもたちと過ごす時間は楽しかったけれど、体力を使いました。子どもがやんちゃなのは、国が違っても共通しているんだなと思いました。けれど、意外だったのは人見知りをしている子が多かったことでした。子どもはひとの目を気にしないというイメージが強かったので、人見知りをしているのがとても

かわいく見えました。

最後に、市役所を訪問しました。市役所の中は日本の少し暗めの雰囲気とは違い、太陽の光を中に通し、中のデザインも少しカラフルで明るい雰囲気でした。市役所の一室で市長を待っている間も少し緊張していました。市長が入ってきた時に緊張がもっと高まりましたが、市長は優しい笑みでプレゼントを渡してくれました。そのあと外で市長との写真を撮ったあとに、みんなで町中を歩き、解散しました。



この日は緊張ばかりで、すごく疲れたけれど、私の研修テーマである「人々との交流」にはぴったりの日で、良い経験ができたと思います。今後は、このような経験を活かして、日本でも緊張感のある場面でしっかりと話をしていけるくらいメンタルを強くしていけたらいいなと思います。

リングフリー校からお別れ会

北海道登別明日中等教育学校 3年 三村 凜

私たちは6日目にリングフリー校を訪問しました。皆で学校に集まり、ホストが通っているクラスに行き、そこで皆と工作をしたり、はしの使い方やつるの折り方などを教えました。私もつるが折れないので少し焦りましたが、紙ひこうきという最大の武器で闘いました。



工作をしたあと、学校を“探検”して、軽食をとり、外で遊びました。学校には面白い遊具がたくさんあり、グラウンド、バスケットコートと、とても設備が整っていました。体育館のような所でトランポリンなどをしました。

学校を出て、次に老人ホームに行きました。デンマークの老人ホームはホテルのようでした。広い庭にキレイな家具、日本の老人ホームより進化していました。

老人ホームを訪ね終わったあと、各自解散をし、家に戻りゆっくりホストとの時間を過ごしました。そして6時にもう一度学校に集合して、お別れ会が始まりました。



各自の家から持ちよった食べ物・飲み物が沢山ありました。持ちよった食べ物がバイキングのように並んでおり、そこで気づいたのが、デンマークの人達はラザニアとハンバーグが好きだということです。結構な数の家がラザニアやハンバーグを持ちよっていました。ホスト達と楽しく食事をし、デザートに入る前に

プレゼンテーションがありました。すごくドキドキしました。特にけん玉を披露するのはプレッシャーでした。でも、私のホストが私に向かってgoodサインを送ってくれて、少し緊張がほぐれました。結果、プレゼンも歌も上手いきました！皆で喜びを分かち合った後、デザートタイムに入り、そのあと各自遊びました。遊んでいる時に、鬼おどりで使った鬼のお面をつけて遊んでいる子が何人かいて嬉しくなりました。この1日は、すごく短かったような気がします。お別れ会の時は、ちょっとさびしかったですが、ホストとも、ホストの友達とも仲良く過ごせてとても楽しい1日でした。



デンマークから日本帰国まで

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 西村 爽

ホストファミリーとの最後の夜、私はユーリエと妹のフイエからラストプレゼントとして家族の絵をもらいました。「この絵を見て、私たち家族を忘れないでね。」と言ってくれ、お母さんは「淋しくなるわ。」と泣いてくれました。最初のうちは会話を



するのも緊張したけれど、勇気をもってたくさんのお話をし、毎日と一緒に楽しく過ごしました。日本の折り紙やおはしの使い方を教えたり、デンマークの伝統的な食事の話や、トランポリンと一緒に楽しんだりする中で、自分なりに日本とデンマークの小さな文化交流が出来たのではないかと思います。最終的には本当の家族のように仲良くなれて本当に良かったと思います。最後の夜、私は家族へのラストプレゼントに、家族がお土産で特に気に入ってくれた折紙でくす玉とこまを作りました。



出発の日の朝、家族と一緒に朝ごはんを食べた時、私は昨夜作ったプレゼントを渡しました。家族はとても気に入ってくれて嬉しかったです。「またいつでも帰って来てね。」と言ってくれました。帰りの列車が出るまで手を振って見送ってくれました。鞆は家族からもらった絵や食べ物でまとめた時よりもずっと大きくなっていました。

空港でお昼ごはんを食べ、デンマークを発ちました。日本に着く迄の約10時間、時差で全く眠ることができませんでした。

日本に着いて、リュックを前に持たなくても大丈夫だということを思い出し、思わぬところで「日本に帰ってきた。」と感じました。日本に帰ってきて、私と友人はお昼ごはんラーメンを食べました。和食ではありませんでしたが、正油の味が久しぶりででした。

デンマークから日本に帰ってきて、日本が平和なのを改めて感じました。



研修テーマ

デンマークと日本の生活習慣の違いについて

登別市立幌別中学校 1年 小松 萌加

私は研修テーマとして「デンマークと日本の生活習慣の違いについて」調べました。理由は、日本とデンマークの生活習慣の違いに元々興味があったし、実際に自分で体験をして調べられると思ったからです。



私のホストファミリーの家では、まず、くつをはいたまま家に入ります。そして、くつをぬぐことはありません。「日本では、家に入る時必ずくつを脱ぐんだよ」と言うとても驚いた表情で“Really?!”と言っていました。他にもトイレとシャワーが一緒なのには驚きました。

また、鍵を見た時も驚きました。ホストファミリーの家でお風呂に入る時、「鍵はこれだからね。」と言われました。鍵を見るととてもかわいらしい鍵でした。まるで絵本に出てくるような形の鍵で、使う時はわくわくしました。

そして一番私が驚いたのが、セブンイレブンです。日本と違って品揃えがとても豊富でした。それとレジカウンターの横には、大量のパンやソーセージ、ドーナツがありました。店のはじにはシャリシャリとしたシャーベット状の飲み物がありました。赤、黄、緑などとても色がカラフルでした。色が濃いので、味も濃いのではないかと私は思います。



デンマークの主食は日本と違ってパンなので、お昼はサンドイッチが多かったです。夜は、私のホストファミリーの家はお肉だったので、ナイフとフォークを毎日使いました。日本では、朝・昼・晩、全部はしを使うので、朝・昼・晩全てがナイフとフォークというのがとても新鮮でした。お菓子もカラフルでかわいらしかったです。



日本とデンマークの違いについて、実際に体験することで深く知ることが出来たのがとてもよかったです。

デンマークの人々との交流

登別市立鷺別中学校 2年生 西舘 優花

デンマークの人達は、みんなフレンドリーで、ケンカをしている人はまったくいませんでした。

デンマークの人達は、大勢で集まって何かをするのが好きみたいで、私のホストもいろんな人たちと遊んでいました。遊ぶ時はたいてい外で遊ぶことが多いようです。自然の中で遊ぶのはとても良いことだと思いました。一緒に遊んでいてとても楽しかったです。

また、デンマークは、ペットを飼っている家が多く、主にネコとイヌが多かったです。動物はどれもとてもかわいかったです。



家の庭にトランポリンを置いているところが多く、それはとても大きかったです。高く飛べるし、学校の授業でもあって、みんな運動神経がとても良いことがわかりました。私のホストは、バレーボール・クラブに入っていて、とても上手でした。

デンマークの子ども達は、8月10日頃から新学年がスタートし、夏休みは宿題が出ません。思春期を過ぎるころには子ども同士で旅行に行くようになるようです。日本では、そんなふうに旅行できる人は少ないので、ちょっとうらやましいと思います。

最後に、自分が交流してみて感じたデンマークの人々の良いところを書きたいと思います。デンマークの人達は、明るくフレンドリーで、個性的な人たちがたくさんいます。そして思いやりがあります。私はこの旅で、言葉が通じなくても気持ちは通じることを学びました。レゴランドでホストの子と同じ乗り物に乗り、一緒に楽しんで笑いあったあと、それまでよりもっと仲良くなれたような気持ちになったからです。

これからも機会があったら、このような交流をまたしてみたいなと思います。最初は緊張していたホームステイや飛行機も、その場ではもっと緊張したけれど、楽しい気持ちの方が大きくなり緊張も忘れてしまいました。リング駅では帰りたくない気持ちが大きくでもお別れをしなくてはいけなくて、とても悲しい気持ちになりましたが、最後までホストとの時間を楽しみました。お金を貯めて、自分の力でいつかまた行ってみたいです。



日本がデンマークに与える影響と家の違いについて

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 飯尾ひなた

私は、日本がデンマークに与える影響と、デンマークと日本の家との違いをテーマにして調べてきました。

アメリカなどで日本の寿司やマンガが人気を集めているということは聞いたことがありましたが、ヨーロッパにあるというイメージがありませんでした。しかし、思った以上に日本の伝統文化は世界に広がっていて、嬉しく思いました。例えば、回転寿司屋さんやすき焼き屋さん、けん玉などです。回転寿司屋さんはワインなどが置いてあり日本とどこか違うところがありましたが、寿司そのものは日本と同じでした。すき焼き屋さんにあったのも日本と同じすき焼きでした。また、現地の学校にはけん玉を首から下げている子がいました。その子はとてもけん玉が上手で、ボードに乗りながら難しい技を連発していてとても驚きました。日本の伝統的な食べ物や文化が世界に広がっていることを知り、もっと広がってほしいと思いました。



私のホストファミリーの家は庭が広く、リビングやダイニングがとてもおしゃれでした。外国ではくつを脱がずに家に入ると聞いていましたが、私のホストの家では外用と家の中用でくつを分けているようでした。朝などは裸足で歩いたりもしていたので、日本とあまり変わりはないのだと感じました。私の部屋は2階にあり、もともとお兄さんが使っていたと聞きました。窓を開けるときれいな庭が見えます。庭では犬のミレが毎日走り回って遊んでいました。また、私のホストファミリーのヨセフィーヌの部屋には、勉強机が見あらず、勉強道具のようなものもありませんでした。日本の一般的な部屋とは違うのだわかりました。

デンマークに行って、日本が影響を与えていることや日本と違うことを学び、おもしろく思い、他の国についても知りたいと思いました。学んできたことを今後活かしていきたいです。



デンマークの習慣と生活スタイル・教育方針や方法

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 櫻井 涼風

私は、ホストファミリーと過ごした4日間、デンマークと日本の生活習慣の違いや教育方法の違いをたくさん感じました。



生活習慣で感じた違いは、まず「食」についてです。主食はパンが多く、私のホストファミリーの家ではパンしか食べませんでした。朝には、固いパンにチーズをのせたり、ジャムをのせたりして食べました。昼には、たいていチキンの入ったサンドイッチを頂きました。夜は、様々なものを食べましたが、たいていはホストファミリーが作ってくれました。また、出てくるパンはほとんど手作りでも驚きました。日本とは違って、手軽にパンを作ってしまうのは、時間にゆとりがある感じがしてすごいなと思いました。

また、デンマークの夏の夜は長いため、活動時間も長かったです。夜の8時まで外にいても夕方のような空の色でいつまでも外にいられるような感覚でした。ホストの子も元気で、10時まで普通に外にいたので、私たちは1日の疲労が結構たまりました。ユリエーネも朝早く起きるのは辛そうで、夏休みは朝の4時に寝て、昼の12時に起きることも多々あったそうです。



次に、デンマークの教育方法や方針についてです。デンマークの税金が高いことは有名だと思います。しかし、その税金は国民のために大いに使われているのです。その内のひとつに「教育」があります。小学校から大学までの教育費は基本的に無料なので、日本のように教育にかかるお金の支払いに追われたり責任を感じたりする感覚は無く、ゆっくり自分のやりたいことを考えるそうです。自分にあった道も見つけられるので、楽しく仕事もしていけるのだろうなと思いました。

また、ホストマザーのヘレに教育について話を聞いたとき、彼女は「娘は教師に怒られることもあるけれど、あの子が楽しければ、私たちが幸せ。」と言っていて、とても驚きました。日本の母親達とは全然違う考えだなと思いました。



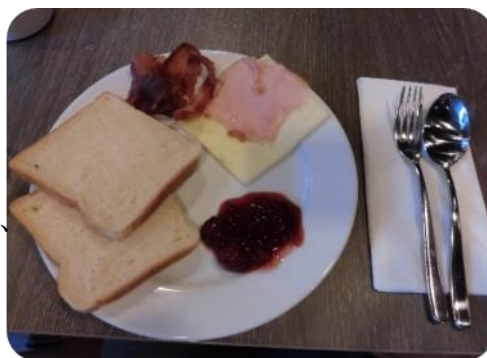
最後に、日本とデンマークの間には違いがたくさんあり、私が調べたこと以上に違いはたくさんあると思います。だから、その違いを理解し、自分の視野を広げることで、国際理解にも繋がるだろうと思いました。この経験を将来に生かしたいです。

デンマークの朝ごはんについて

北海道明日中等教育学校 3 回生 西村 爽

研修テーマは、朝ごはんについてです。このテーマにした理由は、1日の三食の中で一番重要な栄養補給と言われている朝食について調べることによって、その国の身近な文化を見られるのではないかと思ったからです。

デンマークの基本的な食事はパンがメインでした。朝は、家で焼いた少し硬いパンを食べました。パンには、ジャムやクリームを塗って食べるのですが、その種類は実に色々なものがありました。ジャムは果物系が数種類、クリームチーズやパンにのせて食べるための薄い板チョコレートなどが、毎日の朝ごはんに出てきました。



パンの他には、米を原料としたシリアルやバナナ、オレンジ等の果物、さらにニンジンが出るが多かったです。デンマークではよくニンジンを食べるという話を日本でも聞いていたのですが、本当にデンマークの人たちはニンジンをたくさん食べていました。基本は生でそのまま食べたり、チョコクリームやクリームチーズをつけて食べたりしていました。

デンマークの朝食について調べてみて、一番日本との違いが大きいと感じたことは、野菜と果物の量でした。日本ではサラダ等の野菜は基本的にサイドメニューとして食べる人が多いのですが、デンマークでは主食並みの量で、朝から野菜と果物を食べていました。これは、野菜不足の人が多いと言われている日本と比べ野菜や果物をたくさん食べることによって、より健康的な食事になっているのではないかと思います。夏は白夜で睡眠時間が短めになるデンマークの人々にとって、健康的に生活する方法の一つなのではないかと思います。



デンマークの主食と自転車の違いについて

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 三村 凜

私の研修テーマの 1 つ目は、主食の違いです。

デンマークの主食は、パンでした。そして私のホスト宅では、毎日同じ朝ごはんでした。ジャムをぬったパンと牛乳というシンプルなものでした。パンも日本とは違い、ふわふわというより、ざくざくしていました。それにパンの中にドライフルーツが入っていて驚きました。



1 日目にホストの皆さんが気を使ってご飯を出してくれました。デンマークの米は細長く、ベタついており、独特な臭いがしていました。おそらくタイ米を食べさせてくれたのだと思います。しかも、タイ米の上に、ドレッシングをかけて食べていました。日本でいうと米の上にサラダドレッシングをかけるような感じでした。食べたことのない味でした。朝も昼も夜もパンという生活は、やはり少々飽きが出ました。今回のテーマを考えるうちに、日本人は米が好きだなあと改めて実感できました。



2 つ目のテーマは自転車の違いです。デンマークでは、皆、自転車で移動していました。街の電車の中には自転車専用の車両があったり、事故防止の為に歩道、大きくて使いやすい駐輪場があり自転車に親しみやすい環境になっていました。これが、自転車を使う人が多い理由の 1 つだと思います。2 つ目の理由は、環境のことを考えているのだと思います。自転車は、自動車と違い、排気ガスも出なく、キレイな空気のまま暮らせるということだと思います。それに、デンマークは、街の規模がそんなに大きくないので移動が自転車の方が楽というのがあると思います。

使う理由がこれなら、違いはなにか？私が思うに、日本は自転車と触れ合う環境が少ないと思います。日本人は、移動は自動車となり、健康にもあまり良くはないと思います。だから、これからデンマークのように日本も自転車をもっと活用していくべきだと思います。



デンマークのお菓子について

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 菅原 里乃彩

私はデンマークのお菓子について調べました。デンマークのお菓子は、日本で売っているポテトチップスやチョコレートなどと同じようなものがたくさんありました。とくにグミの種類が多かったです。また、日本と同じ商品名の「Kit Kat(キットカット)」や「SNICKERS(スニッカーズ)」も売られていました。



私は日本のスーパーで、お菓子の量り売りを見たことがありません。デンマークで行った「Super Brungsen (スーパー・ブルーセン)」と「FØTEX (フォーテクス)」という 2 軒のスーパーでは、両方のお店に量り売りのお菓子がありました。それは、コペンハーゲンの駅の中のセブンイレブンにもありました。名前は「Candy King(キャンディー・キング)」というそうです。とても多くの種類のグミやキャンディー、チョコレートがあり、ほしい分を選ぶことができます。その値段は、100g で 12.95 クローネ、日本円で 234 円でした。「M&M's (エムアンドエムズ)」の量り売りもありそれは 100g 14.95 クローネ、日本円で約 270 円でした。とても色あざやかでおいしかったです。



デンマークで私が見たのは、自分で取るタイプのものでしたが、他にもガチャガチャタイプもあるそうです。日本にもあるのと同じガチャガチャのお菓子で、デンマークでは直径 6 センチメートルのガムが入っているものもありました。それは、ちなみに 10 クローネ、日本円で 180 円でした。私の友達がそれを食べたのですが、「あまり美味しくなかった。」と言っていました。

また、セブンイレブンには、日本では袋に入っているポップコーンやポテトチップスがプラスチックのケースに入って売られているのを見ました。ホストの家では、チョコチップやカラフルなチップが入ったクッキー、ナッツにチョコがかかったものが出てきました。どれもこれもおいしく、とても気に入りました。ただ、デンマークでおいしいと言われているラクリスは、食べてみましたがあまりおいしくありませんでした。



日本とデンマークのお菓子を比べてみて、デンマークには日本に無い色のお菓子がいろいろあって、全体的にカラフルだなと思いました。

感想文

一生の思い出

登別市立幌別中学校 1年 小松 萌加

「早くデンマークに行きたい。」

11時間25分のフライトを終えてコペンハーゲン空港に着きました。最初は実感がなくて、気持ちもあまり高ぶっていなかったけど、チボリ公園に向かう頃からだんだん気持ちが高ぶりました。

チボリ公園に着いて、チケットを買おうとした時、チケット売場がわからなくて戸惑ってしまいました。そこで、近くの係員さんに英語でたずねて、通じたとき、「やっと自分は外国に来たんだ。」と、初めて実感がわきました。



2日目は、オーデンセにアンデルセン博物館を見に行きました。アンデルセン自身や住んでいた家について、初めて知ることが沢山あっておどろきました。

その後、オーデンセからリングゲに向かいました。リングゲ駅には、ホストファミリーの方が待っていてくれました。電車からおりると、私のホストファミリーのマチルデとそのファミリーが笑顔で迎えてくれました。不安だった気持ちとその笑顔で一気にふきとんだ気がしました。ホストファミリーの家に着くと、みんなが自己紹介をしてくれました。マチルデのお母さんが「1週間楽しみましょうね。」と言ってくれました。その後、マチルデと一緒にトランポリンをしました。そこでいろいろな話ができ、とても楽しかったです。



3日目、4日目のイーエスコー城とレゴランドでは、他のホストの人とも交流が出来たので、とてもうれしかったし楽しかったです。「もう少しでいいからデンマークにいたい。」と思ってきたころ、もう最終日まで3日となっていました。少し悲しく感じました。

そして最終日。ホストファミリーと駅まで歩いていきました。駅に着いて10分ほどすると帰りの電車が来て、電車の中から手を大きく振ったらホストファミリーも大きく振ってくれました。悲しいというより、楽しかったです。



飛行機では、写真を見てデンマークでのことをふり返っていました。私は、これをこえる思い出はなかなか無いと思います。だから、私にとってデンマークでの思い出は一生の思い出となりました。

デンマークの思い出

登別市立鷺別中学校 2年生 西舘 優花

1日目、コペンハーゲン空港に到着し、空港の地下から地下鉄に乗り、コペンハーゲン中央駅に着きました。ホテルに一度荷物を置いたあと、チボリ公園へ行きました。チボリ公園は世界最古の遊園地なのに古い感じは無く、アトラクションもとても楽しかったです。



2日目、ホテルを出て電車に乗りオーデンセ市へ行き、道子・ペダスンさんに市内を案内してもらいました。その後オーデンセ駅に戻り、そこからリングゲ駅へ向かいました。リングゲ駅に着き、私のホストであるサラに会いました。緊張しましたが、とても優しく迎えてくれました。5時半ごろからヨセフィーヌの家に行きました。



ヨセフィーヌとは、飯尾ひなたちゃんのホストです。ひなたちゃんとヨセフィーヌとサラと私の4人で、いろいろなことをして遊びました。とても楽しかったです。

3日目、イーエスコー城へ行きました。景色がとてもきれいで、馬車にも乗ることが出来ました。

4日目、レゴランドへ行きました。午前中はひなたちゃん、里乃彩ちゃん、凜ちゃんと一緒にいて、午後はサラ、里乃彩ちゃん達と遊びました。ジェットコースターがとても楽しかったです。

5日目、ノーアエア校や森の幼稚園に行きました。ノーアエア校はとても広くて、1つ1つの部屋がキレイに片付いていました。森の幼稚園は子供がたくさんいて、みんな照れ屋さんばかりでとてもかわいかったです。

6日目、お別れ会は、少しさびしかったけれど、みんなと過ごせて良かったです。プレゼンも大成功でした。

7日目、帰りたくなくて、リングゲ駅ではホストファミリーや知り合った友達と別れを惜しみました。

8日目、帰国したとたん、どっと一気に疲れが出て、ゆっくり休みました。たくさん思い出ができた、楽しい一週間でした。



心配だった会話、楽しかった海

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 飯尾 ひなた

私は、デンマークに行った日々を思い出すと、またホストファミリーに会いたいという気持ちがあふれてきます。



ホストファミリーのヨセフィーヌと会ったばかりの頃は、会話がなかなか続かず、聞かれたことに答えるだけの時間が続きました。しかし、サラと優花ちゃんが遊びに来て盛り上がり、自然としゃべれるようになりました。それからは学校や家、家族の話などをして、いろいろなことを知ることができました。

ホストマザーは、仕事でとても忙しく大変そうでしたが、食べ物は口に合うか、困ったことは無いかなどいつも私の事を気にかけてくれました。

ホストシスターはとても優しく、私のあげたお土産をいつも使ってくれました。

ホストブラザーはあまり家になくて、いてもあまりしゃべりませんでした。海に連れて行ってくれたり優しい一面もありました。

犬のミレは最初警戒してずっと吠えていましたが、最終日にはお手や伏せ、待てなど、様々な芸をしてくれるようになりとても嬉しかったです。



家族で行った海では、みんなできれいな石や貝がらを集め、記念に私にくれました。ミレまで私に石を拾ってきてくれて、嬉しきで胸がいっぱいになりました。



水に入れるともっときれいに見えるよ、とヨセフィーヌが教えてくれたので、家に帰ってさっそくびんに入れてみると思った以上にきれいでした。蚊に刺されるというハプニングもありましたが私にとってとても良い思い出の1つです。

ホストファミリーと過ごした5日間は、デンマークに行った中で最も楽しく、学ぶことがたくさんあったことだと思います。このことは一生忘れないでしょう。ホストファミリーのみんな、ありがとうございました。

初めての海外

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 櫻井 涼風

初めての海外。初めてのパスポート。海外へ行くのは昔からの夢で、デンマークに本当に行けるのか、不安と興奮でいっぱいでした。

初日をむかえ、飛行機に乗っていても落ち着かなく、なかなか眠れませんでした。約12時間のフライトを終え、ようやくコペンハーゲンの空港に着き、たくさんの外国人がいる日本とは全く違う風景を見たとき、私はやっと「デンマークに着いたんだ。私は今、”海外”にいるんだ。」と強く実感しました。

それから、電車に乗り、ホテルに向かい、チボリ公園へ行きました。街中を歩いていても、私に見えていた風景は、いつの日かテレビで見たような美しいものだったのです。まるで別世界にいるような感覚でした。その日はなかなかハードで、自分で感じていなかった疲労がベッドに横になるとすぐに出てきて夢も見られないぐらい熟睡してしまいました。

そして迎えた2日目。ホテルで朝食をすませ、道子さんと共にオーデンセの街を観光しアンデルセンの生涯を学びました。

その後、電車でホストファミリーの待つリングゲへ行きました。ホームステイはこの研修の中で一番楽しみだったので、車内では自分の英語が伝わるのか、楽しく過ごせるか、楽しみと不安の入りまじった不思議な気持ちでした。



駅に着いた時、ユリエーネがどの子かすぐにわかり、私のことを優しく迎えてくれました。お父さんとお母さんも一緒に来てくれていて、家までの移動中、車内では質問攻めで答えられなかったりして、ホストファミリーを困らせてしまいました。でも、何回も言い直してくれました。



それから4日間ホストと過ごしました。一緒にレゴランド、イーエスコー城、幼稚園などたくさんの場所へ行きました。ホストが連れていってくれた場所で一番感動したのは海です。海の水は澄んでいて、砂は白く、向こう岸にはきれいな街並みが見え、目に映るものすべてが輝いて見えました。ホストのパパ

がデンマークで有名な大きいアイスを買ってくれました。3つの味のアイスを重ね、トッピングがたくさん乗っていました。初めて食べる味で、とてもおいしかったです。

ホストファミリーと過ごす時間はあっという間に感じるくらい楽しくて、私にとって全てが初めてで新鮮に感じました。パパとママもたくさん話しかけてくれ、お姉さんはわからないことをたくさん教えてくれました。一番はユリエーネです。いつも私といてくれて、静かな時がないくらい楽しくさせてくれました。

デンマークに行ったことで学んだことはたくさんあり、行けるなら何回も行きたいし、永住したいぐらいでした。これで私の感じたことが全部ではありません。語っても語りきれないぐらいあります。これからこの経験を生かし、様々なことにチャレンジしていきたいと思います。



デンマークの暮らしと学び

北海道登別明日中等教育学校 3年 西村 爽

デンマークに行く前、私が一番不安に感じていたことは、ホストファミリーとの生活でした。もちろん海外で、会ったことの無い家族にお世話になって生活することは初めてだったし、英語が得意な方ではない私は、会話はもちろん、全てが不安でした。



デンマークに着いてから、チボリ公園に行ったり、ホテルに一泊したりしましたがそれらは派遣団の友達、日本人と一緒にしました。周りは外国人ばかりでしたが、一緒にいるのが日本人だったので、まだ心に余裕がありました。



いよいよホストファミリーと初めて会うという時、私はとても緊張していて、初めに英語で「初めまして。私の名前は爽です。ホストファミリーを受けてくれてありがとうございます。」と、前から考えていた最初の挨拶が頭の中を駆け巡っていました。私の迎えにはお母さんと14歳のユーリエ、9歳の妹のフイエが来てくれました。家族は私のことをすぐに見つけてくれて、「待っていた。よく来たね。」と歓迎してくれました。私の名前も覚えてくれていました。家に着くと、1つ部屋を貸してくれ、デンマークの伝統的なケーキを食べました。とても美味しく、家族ともたくさん会話ができました。

ホストファミリーとの生活は想像よりもずっと楽しく、本当の家族のように過ごせました。悩んでいた英語も、学校で習うような文ではなく、簡単な単語等で全く問題なく伝わりました。ファミリーはお土産の折紙やお菓子をとても気に入ってくれました。最終日はお母さんが淋しくなると言って泣いていました。家族全員とハグしてお別れしました。



このデンマークの旅を通じて、世界の人とのコミュニケーションを取るのに重要なのは、英語はもちろんですが、それよりもずっと親しみやすい笑顔と話しかける勇気だと学びました。

デンマークでの一週間

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 三村 凜

「すごっ！！」

外国に着いた時の私の最初の一言。

コペンハーゲン駅に着いて門を出た時、私は映画の中の世界に入ってしまったのかと思いました。うるさいくらいに聞こえる外国語、美男美女、きれいな街並み、全てが私にとって初めてだったのです。それからホテルに行き、チボリ公園に行くと、とてもハードな1日目になりました。飛行機の中でためた体力も底をつきました。



2 日目は、ホテルで朝食を済ませ、アンデルセンの旅に出ました。暑くて、歩く距離も長く疲れきってしまいました。そして、ホストファミリーと会う為リング駅に向かいました。その電車の中で、友達と英語が通じるか、うまくとけこめるかなどを考えると不安になりました。電車を降りると沢山の外国人がいて、私たちを迎え入れてくれました。私も自分のホストファミリーを見つけ、



勇気を持って自分から声をかけに行くと、私に向かって「Hello! Rin」と笑顔を向けてくれました。その時私は、「ああ、いい人だ。」と思い、早く打ちとけたくて色んな言葉を発してみました。ホストのミレという子は、笑いながらうんうんとうなずいてくれていましたが、今思うときつと何を言っているかわからなかったと思います。

それから4日間、ホストのミレと共に過ごしました。驚いたのは、ホストの兄が私の事を見て、「コンニチハ。リン。」と声をかけてくれたことです。兄さんの他にも、ミレと歩いていたら「コンニチハ。」と声をかけてくれる人たちがいました。本当に驚きました。同時に、凄く日本が恋しくもなりました。家族や友達に会いたくなりました。でも、ミレといることで少し寂しさがまぎれました。ミレとの思い出は多すぎて何から言えばいいのかわからないです。



デンマークに行って、沢山のことを学び、沢山のことを伝えてきました。私にとって今回のことは、一生忘れられない思い出になりました。ミレ、ありがとう。

P.S. でも、お昼にメロンとスイカはキツイよっ！！(笑)

ホストファミリーとのおもいで

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 菅原 里乃彩

2 日目の 4 時ころに初めてホストファミリーのマイヤに会いました。その時はマイヤの友達のリニーヌもいました。

家に着くと、家の中を紹介してくれました。そのあと、3 人でマイヤの犬のセンタの散歩に行きました。私の英語がうまく通じたかはわかりませんが、2



人は私がわからなかった時はすごく丁寧に教えてくれました。とても嬉しかったです。

3 日目は、イーエスコー城から帰ってきてマイヤとリニーヌと羊毛フェルトでクマや地球みたいなものを作りました。羊毛フェルトというのは綿のような羊毛に針を刺したり石けん水でぬらしたりして形を作るものです。そのあと、派遣団のみんなやそのホスト達が私のホストの家が集まってきました。たくさんの方が来たのですごくびっくりしました。そしてみんなで水遊びをしたあと、夕食にパンを外で焼いて食べました。

4 日目、レゴランドへ行き、戻ってきたあと、また羊毛フェルトでクマを作りました。そのあと洗面所で小さいしきもののようなものも作りました。それは、石けん水を何回もしみこませて羊毛をくっつけ、つなげて作りました。

5 日目は、マイヤとマイヤのお母さんとひなたちゃんとひなたちゃんのホストファミリーのヨセフィーヌと一緒にオーデンセの大きなショッピングモールに行きました。最初に私のお金を交換するために「FOREX(フォレックス)」に行きました。ここは両替をするところです。そのあと、日本でも有名な雑貨



のお店「TIGER(タイガー)」を見つけ入りました。ここでは、萌加ちゃんや涼風ちゃん、爽ちゃんに、それぞれのホスト達にも会いました。他には、スーパーマーケットの「FØTEX(フォーテックス)」や、雑貨店の「ALL



OVER THE WORLD(オールオーバーザワールド)」にも行きました。どこのお店も日本と違って通路がまっすぐではなく、曲りくねった迷路のようでした。

そして家に帰ったあと、マイヤといっしょにチョコレートケーキを作って食べました。すごくおいしかったです。これらの出来事は私の宝物です。

引率者報告書

平成 27 年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業を終えて

団長 登別市教育部・学校教育グループ 櫻井 貴志

1 派遣日程の経過報告

1 日目 (8月7日(金))

早朝 5:15 に集合、生憎の雨だが生徒の表情は晴れやか。体調が悪そうな子もないのでとりあえず一安心。出発の挨拶を済ませ、いよいよ出発。校長先生や担任の先生も見送りに来てくださった。多くの方々に見送られ、バスに乗り込んだ。バスの中で再度、パスポートの確認、忘れ物はなさそうだ。新千歳空港で柴山さんと最終確認を終え、搭乗手続を行った。コペンハーゲンまでの発券ができたのでずいぶん楽になる。出発ゲートをくぐると山本主査が心配そうな顔で見てくれていた。朝早くからの対応で彼もずいぶん疲れたであろう。



成田に着くと天候もよく暑かった。出国ゲートをくぐり時間があつたので自由時間をとった。換金は少し高めだったので、当初の計画通りデンマークですることにした。いよいよ飛行機に搭乗、スカンジナビア航空である。子ども達も座席が近くだったので長い時間を持てあますことはなさそうである。機内では、ビデオ鑑賞、ゲーム、睡眠と思ひ思ひに時間を過ごしていた。さすがに疲れたのか眠る子が多かった。

定刻通りコペンハーゲンに到着、意外と暑い。岩手出身の小川さんがアシストとして合流。17:15 にホテルに着き、18:00 にチボリ公園に出発することとした。外は明るく、湿度が低いので心地よい気分である。チボリ公園では、3 時間ほど時間をとったが、当日は、コンサートがあるらしく人、人、人であった。帰りは、セブンイレブン (街中にある) に寄り、飲み物や軽食等を購入した。相変わらず物価が高く、コーラ 1 本 500 円。小さなクロワッサンも 200 円以上した。みんな疲れていたが、初めて見る街並みに興奮しているようである。ホテルに着き、明日の集合時間を伝え、就寝とした。



2日目 (8月8日(土))

今朝は、4:00に起床。時差の関係から早く起きてしまった。せっかくなのでコペンハーゲンの街を散歩することにした。建物や街並みが朝日を浴びてとてもきれいだった。

ホテルに戻り、朝食時間となった。朝食は、バイキング形式で子ども達も喜んでいて、ハードな1日を終えたことから食欲を気にしていたが、いつも以上に食べている様子で安心した。さすが今回のメンバーは逞しい。朝食を食べ終わると、いよいよオーデンセに向けて出発。小川さんのアシストで電車に乗り込んだ。1時間30分後、オーデンセに到着し、道子さんと再



会した。相変わらず道子さんはパワフルで、挨拶もそこそこに荷物をホテルに預けに向かった。シーズン中ということもあり、一泊分の料金がかかった。その後、昼食を購入し、無料バスに乗ってアンデルセンの生家や関係施設に向かった。各施設では、道子さんが情

熱的に説明して下さった。リングゲに向かう電車時間に間に合うかドキドキした。

何とか電車に乗り、いよいよリングゲ。駅では、たくさんの方々が出迎えてくれた。リジィさん、ココさん、懐かしい顔も見られた。子ども達のホームステイ先のファミリーに挨拶を済ませ、それぞれの家に向かった。我々はアネさんの家だ。旦那さんのトーベンや3人の息子さんも出迎えてくれた。

私は庭のセカンドハウスを使わせてもらうことになり、外のシャワーを使うことになった。ワイルドすぎる…。



3日目 (8月9日(日))

朝、5:00に目が覚め、少し肌寒いが外シャワーを浴びた。寒かった。月居先生にも薦めてみたが、当然断られた。朝食を済ませ、イーエスコー城に行くため、集合場所に向かった。ホームステイ先の家族同士が仲のよいところは昨夜も一緒にいられたようだ。子ども達は、顔色もよく、食事も満足したと言っていた。安心した。

イーエスコー城に着き、そのすばらしさに子ども達も感動していた。城の中や庭園を周り、



子ども達は馬車に乗っていた。ココさんが一緒にまわって、歴史や当時の生活スタイルについて説明して下さった。

イーエスコー城で子ども達と別れ、我々はココさんの家に招かれ、お茶をご馳走になった。相変わらず日本庭園がすばらしく、池の鯉も元気そうだった。

ココさんの家を後にし、アネさんのサマーハウスに向かった。海岸近くのサマーハウスは、景色もよく、こんな生活ができることにうらやましさを感じた。夕方4時にもかかわらず、天気が良かったこともあり、海水浴に誘われた。水着がないと言って断ったが、半ば強引に連れて行かれた。ビーチにはたくさんの人がいたが、日本人は我々だけだった。水着に着替え、一応、月居先生も誘ったが、案の定、断られた。水温も高かったこともあり、海に入ると楽しくなって、たくさん泳いでしまった。日本人が珍しいのか、みんながジロジロ見てきたが、目が合うとみんな優しくほほえんでくれた。

その後、サマーハウスで夕食をいただき、22:00に帰ってきた。本当に疲れた。調子に乗って泳いだことを少し後悔した。明日はレゴランド、楽しみたい。

4日目(8月10日(月))

今日は、子ども達が楽しみにしていたレゴランド、8:00にフリースクールに集合して出発。昨夜、子ども達はみんなで集まってパーティーをしていたらしい。昨日は寂しそうにしていた数人も今日の表情は明るく、安心した。生活に順応するスピードは個人差があるが、どの子も慣れてきたようだ。

出発してから約2時間後に到着。本来であれば324DKKかかるところアネさんが交渉してくれて109DKKですんでいる。感謝しなければならない。子ども達は、デンマークの生徒と一緒に行動することになった。本当は日本人だけで行動しなかったようだ。無理もない、常に英語で話しているのでそれだけでも相当疲れてしまう。息抜きをしたかったのであろう。それぞれアトラクションを楽しみ、後半はショッピングをしていた。家族や友人のお土産を買っていたそうである。それにしてもレゴランドは人が多く、いろいろな国の方々がいた。帰りのバスの中では、みんな寝ていた。肉体的にも精神的にも疲れがピークに達しているようだ。



その後フリースクールで解散し、家に帰るとライスを用意してくれていた。久しぶりの米で元気が出た。醤油の味が恋しいが贅沢は言われてられない。夕食後、洗濯をして今日は早めに寝ることにした。屋根をたたく雨の音が心地よく感じられ、眠りについた。

5日目 (8月11日(火))

今日は朝から雨、デンマークに来て初めて雨具を着用した。

フリースクールの近くにあり、幌別中学校の姉妹校であるノーアエア校を訪問した。7年生の生徒達と学校内を周り、グループに分かれてコミュニケーションをとった。登別の子ども達は、臆することなく堂々と自己紹介をしていた。最後に何か見せてほしいと言われたので「さんぼ」を披露することにした。緊張やいきなりということもあり、練習の半分も力を発揮することができなかった。明日の本番に向けて、子ども達もこのままではいけないと感じてくれたのではないだろうか。

その後、森の幼稚園に行った。活動することを中心にとらえた教育方針で、園児達はずっと遊んでいた。子ども達は園児と一緒に遊んだり、面倒をみたりしながら楽しんでいた。

昼食は街の中心部に戻り、みんなで食べた。自由時間には、アイスクリームやホットドッグを食べたり、店をまわったりと思い思いに楽しんだ。午後からはいよいよ市役所訪問。リジィさん、ココさんと待ち合わせ市役所を訪問した。市長は気さくな方で、プレゼントを大変喜んでくださった。最後に全員で記念撮影をして市役所を後にした。



6日目 (8月12日(水))

本日はいよいよ活動最終日、8:30にリングフリー校に集まり始業式に出席。今日から新しい学年が始まるらしいが、特にイベント的なことはない、当然、入学式もなし。

午前中は、7年生の教室で授業、折り紙を紹介したところ大変喜んでくれた。箸の使い方には苦労していたが、笑いの絶えない時間を過ごすことができた。10:30からのブレイクタイムでは、生徒だけでなく家族も校庭で軽食をとった。そういえば始業式にも親が参加し、一緒に歌を唄っていた。



午後からは、体育館で体を動かしたあとに老人ホームに出掛けた。出掛ける前に時間があったので、子ども達はファストフード店でアイスを食べていた。老人ホームでは、リクエストがあり、「さくら」を歌った。子ども達の歌声のすばらしさに施設の方だけでなく、リングフリー校の生徒達も驚いていた。アンコールを求められ、「さんぼ」も歌った。夜の本番に向けて準備完了だ。

これですべてのプログラムが終わり、いよいよ18:00からはお別れパーティーだ。パーティーには、ホームステイ先の家族や過去にホームステイでお世話になった方々、友好協会の方々も来てくれた。それぞれが料理を持ち寄り、子ども達もたくさん食べていた。

宴もたけなわ、いよいよ発表だ。大勢の人の中、プレゼンテーションが始まった。子ども達の英語が上手で、通訳も必要無いと言われた。声も大きい、自信に満ちあふれている。歌も練習の成果が発揮され、大きな拍手をもらっていた。さすが今年のメンバー、決めるときには決める子ども達である。お返しにとのことで、友好協会の方々から歌のプレゼントをいただいた。これも見事な歌声だった。館内が感動に包まれる中、「鬼おどり」の曲が流れてきた。1重2重と円をつくりながら、みんなで踊った。子ども達も笑顔満開、誰もが楽しい時を過ごした。

7日目 (8月13日(木))

いよいよお別れの日。帰国する喜びと別れの悲しみが交錯する変な感情の中、いつも通りに朝食をいただいた。トーベンと別れの挨拶を済ませ、アネさんと駅に向かった。子ども達もホストファミリーと到着、フリースクールの先生や生徒達、友好協会の方々も来てくださった。

それぞれ挨拶を済ませ、電車に乗り込む。涙を流す子もいた。電車のドアが閉まり、いよいよ出発、リングの方々がいっまでも手を振ってくれていた。車窓から見られる景色も何となく寂しげに映った。いよいよデンマークともお別れだ。

オーデンセ駅に着くと、アシストの小川さんが迎えてくれた。そして、一緒にコペンハーゲン空港行きの電車に乗り込んだ。指定席にもかかわらず、隙を見せると割り込んでこようとする。こちら辺は、日本ではあまり経験しないことである。車内では、ホストファミリーが作ってくれた軽食を食べたり、おしゃべりをしたりしながら時間を過ごした。

空港着、すぐに飛行機の搭乗手続を済ませ、小川さんと別れた。出国手続も無事に終了。昼食後、自由時間をとり、お土産を買った。



8日目 (8月14日(金))

飛行機に搭乗後しばらくは話をしたり、ビデオを鑑賞したりしていたが、疲れからか眠っている子が多かった。

成田空港に着き、荷物を受け取った後、羽田までリムジンバスで向かった。やはり、日本は多湿で、快適とは言えない。ジメツとする暑さが疲れた体にはこたえる。羽田空港では、飛行機を待つ間、自由行動とし昼食をとった。久しぶりの日本食はやはりうまい。

新千歳空港では、山本主査、長谷川さんが笑顔で迎えてくれた。その後バスに乗り込み、市役所に着くと、家族の方や学校関係者、市長をはじめとした職員の方々が集まってくれていた。到着式も無事終了し、家路についた。

デンマーク派遣を終えて

北海道登別明日中等教育学校 月居 由香

8月7日から14日まで、子どもたちそして私たち引率者共に、元気にデンマークでの生活を過ごしました。親元を離れ海外経験をした子どもたちにとって、今回の滞在は、まさに驚きと感動の日々だったかと思います。出発直前、真っ赤なデンマーク国旗が表紙のしおりを受け取ったときの子どもたちの様子は、どこことなくまだ訪問するという実感がないうでしたが、実際に異国の地に降り立った子どもたちの様子は、不安というよりも期待感でいっぱいの面持ちでした。デンマークでの1週間は、まさにそんな子どもたちの期待にこたえるような、素晴らしい日々でした。

中学生という多感な時期に異国の文化に触れるということは、これからの人生に大きな影響を与えるきっかけになることがあります。子どもたちは、デンマーク独自の文化に触れ、異文化ならではの良さをたくさん体験しました。そして、単なる文化の違いだけでなく、デンマークの人たちの人柄と、その背景にある歴史や価値観を子どもたち自身の感性で感じとったのではないのでしょうか。

今回訪問したリングフリー校のある先生とお話をした際、こういったことをおっしゃっていました。「何年か先のことをよく考えることも大切だけど、なにより今が幸せかどうかを考えることがもっと大切だよ」。デンマークはとても穏やかな国です。しかし、デンマークの人々にとって、今この瞬間をどうよりよく生きるか、ということに関してはとても貪欲です。幸せな日々の経験の積み重ねが、将来の人生を豊かなものにするという考えがそこにはあります。こうした思いを大切にしてきたデンマークの方々や登別市民の毎年の価値ある交流の積み重ねこそが、両国の人々の豊かな人生を育む大きなきっかけになっているのではないかと、今回の訪問で強く感じました。心豊かな国デンマークで生活した子どもたちが今後この交流を次世代へと継承し、また次の世代へその交流を引き継ぐ姿がとても楽しみです。

今回の派遣に際し、訪問団に貴重な機会と大きな励ましのお言葉をいただきました小笠原春一市長、武田博教育長、そして事前・事後準備において、多大な準備と指導を子どもたちにしてくださった登別市総務部企画調整グループの皆様、深く感謝申し上げます。今回訪問した子どもたちが、この素晴らしい時を経験し、将来大きく成長していくことを願うばかりです。ありがとうございました。

